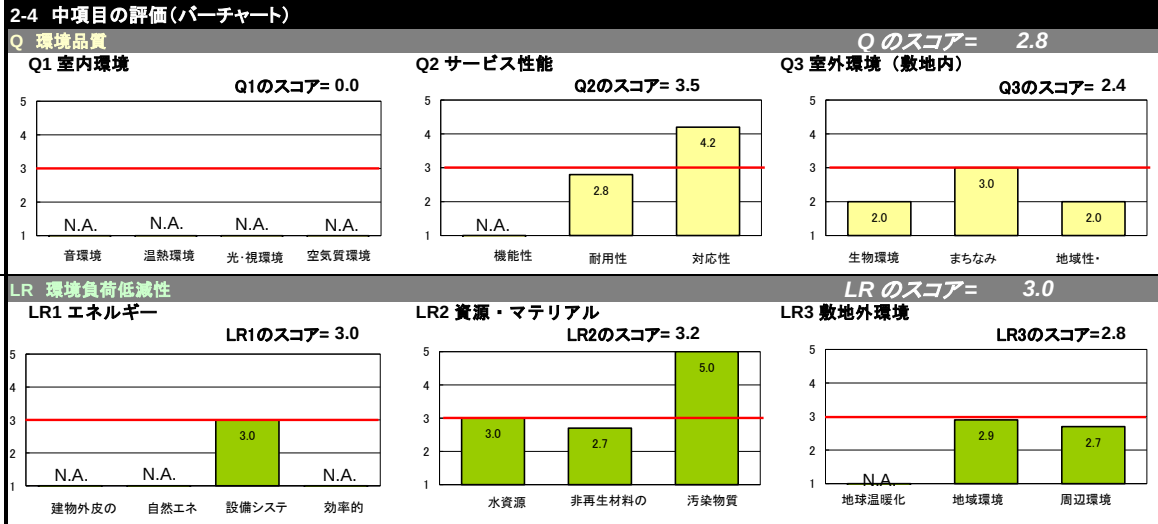
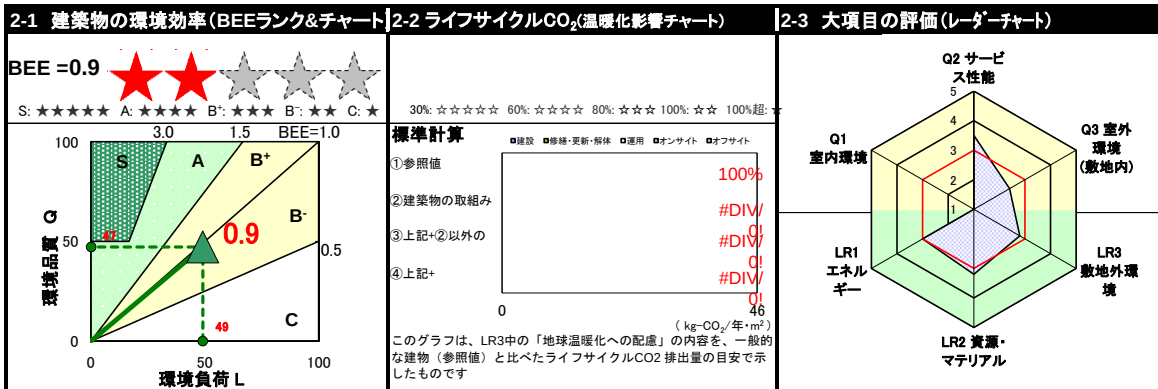




評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)マルアイユニティー豊橋東IC倉庫(A棟)	階数		
建設地	愛知県豊橋市東細谷町字工業団地4-1 他15筆	構造		
用途地域	無し	平均居住人員		
気候区分	6地域	年間使用時間		
建物用途	工場	評価の段階		
竣工時期	2025年12月 予定	評価の実施日		
敷地面積	6,543 m ²	作成者		
建築面積	3,102 m ²	確認日	幸 克洋	
延床面積	2,604 m ²	確認者		



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	N.A	③敷地内の緑化
		2.0
		外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
②資源の有効活用	3.2	28.6 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
③敷地内の緑化	2.0	④地域材の活用
		1.0
		<外装材に使用した地域性のある材料>
④地域材の活用	1.0	なし
		<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
【仮称】マルアイユニティー豊橋東IC倉庫(A棟)

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
	重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								2.8		
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-	-		
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能							3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							3.0	-		
1.3 吸音							3.0	-		
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温				3.0	-		3.0	-		
2 外皮性能				3.0	-		3.0	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	-		-	-		
2.2 湿度制御				3.0	-		3.0	-		
2.3 空調方式				3.0	-		3.0	-		
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率				3.0	-		3.0	-		
2 方位別開口										
3 昼光利用設備				3.0	-		3.0	-		
3.2 グレア対策										
1 昼光制御				5.0	-		3.0	-		
3.3 照度				3.0	-		3.0	-		
3.4 照明制御				3.0	-		3.0	-		
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質				3.0	-		3.0	-		
4.2 換気										
1 換気量				3.0	-		3.0	-		
2 自然換気性能				3.0	-		3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-		3.0	-		
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視				3.0	-			-		
2 喫煙の制御				3.0	-			-		
Q2 サービス性能					-	0.43	-	-	3.5	
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性				3.0	-		3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	-		3.0	-		
3 バリアフリー計画			独自	3.0	-			-		
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-		3.0	-		
2 リフレッシュスペース				3.0	-			-		
3 内装計画				3.0	-			-		
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-			-		
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性				0.5	2.8	0.52	-	-	2.8	
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	2.9	0.33				
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.25				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			②		4.0	0.25				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						0.17				
6 主要設備機器の更新必要間隔					4.0	0.25				
2.4 信頼性				0.1	2.4	0.19				
1 空調・換気設備				3.0	1.0	0.20				
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20				
3 電気設備				3.0	3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法			②	3.0	3.0	0.20				
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20				

3 対応性・更新性				0.4	4.2	0.48	-	-	-	4.2	
3.1 空間のゆとり			②	0.3	5.0	0.31	-	-	-		
1	階高のゆとり	-		5.0	0.60	-	3.0	-			
2	空間の形状・自由さ	3.0		5.0	0.40	-	3.0	-			
3.2 荷重のゆとり				3.0	5.0	0.31	-	3.0	-		
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-		
1	空調配管の更新性	-		-	-	-	-	-	-		
2	給排水管の更新性	3.0		-	-	-	-	-	-		
3	電気配線の更新性	3.0		3.0	0.17	-	-	-	-		
4	通信配線の更新性	3.0	3.0	0.17	-	-	-	-			
5	設備機器の更新性	3.0	3.0	0.33	-	-	-	-			
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.33	-	-	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57	-	-	-	2.4	
1 生物環境の保全と創出				独自③	-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮				独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー						-	0.40	-	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用					3.0	-	-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化				BEI=	3.0	3.0	1.00	-	-	-	3.0
4 効率的運用					-	-	-	-	-	-	-
集合住宅以外の評価					-	-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング					3.0	-	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制					3.0	-	-	-	-	-	-
集合住宅の評価					-	-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング					-	3.0	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制					-	3.0	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	-	3.2
1 水資源保護					0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0
1.1 節水					3.0	-	-	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					1.0	3.0	1.00	-	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67	-	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減				② 独自 独自	-	2.0	0.07	-	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.25	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					-	3.0	0.21	-	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					3.0	1.0	0.21	-	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					3.0	4.0	0.25	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	5.0	0.22	-	-	-	5.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	5.0	1.00	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避					-	-	-	-	-	-	-
1 消火剤					-	-	-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)					-	-	-	-	-	-	-
3 冷媒					3.0	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮				①	-	-	-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮					0.5	2.9	0.50	-	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善					-	3.0	0.50	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.7	0.25	-	-	-	-
1 雨水排水負荷低減				独自	-	3.0	0.25	-	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-	-	-
3 交通負荷抑制				独自	-	4.0	0.25	-	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.25	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮					0.5	2.7	0.50	-	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1 騒音				独自	-	3.0	1.00	-	-	-	-
2 振動				独自	-	-	-	-	-	-	-
3 悪臭					-	-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	-	-	-
2 砂塵の抑制					-	1.0	-	-	-	-	-
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30	-	-	-	-
3.3 光害の抑制					0.2	1.6	0.20	-	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					-	1.0	0.70	-	-	-	-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-	-	-

重点項目スコアシート

(仮称)マルアイユニティー豊橋東IC倉庫(A棟)

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新編)2016年版+あいも版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:28.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)マルアイユニティー豊橋東IC倉庫(A棟)

計画上の配慮事項	
総合	これは、CASBEEあいち2016年による評価
Q1 室内環境	なし
Q2 サービス性能	2.2.2外壁仕上げ材に耐用年数30年のガルバリウム鋼板を利用している。 2.2.6主要設備機器に耐用年数25年の屋外キュービクルを利用している。 3.1.1天井高が高く、倉庫部分にゆとりがある。(軒高GL+9.1m) 3.1.2壁長さ比率が非常に小さく(0.09)、空間の自由度が高い。 3.2倉庫・移動ラックエリア床の積載荷重が30,000N/m ² と大きい。
Q3 室外環境(敷地内)	3.2敷地の72.3%分の空地を設け、風の通り道を確保し、敷地内の温熱環境が良くなるよう配慮した。
LR1 エネルギー	なし
LR2 資源・マテリアル	2.6壁の躯体と仕上げ材の分別が容易になっている。 3.1有害物質を含む材料の利用率が低い。
LR3 敷地外環境	2.3.3敷地や建築物に対し十分な台数の駐車場を設置し、交通負荷が抑制できるよう配慮した。
その他	マルアイユニティー株式会社は、物流倉庫業や一般貨物自動車運送事業、アウトソーシング業を手がける会社です。